

高石市

子どもの安全確保に向けて
～学校防犯システムの導入～

はじめに

高石市は古くからの住宅地と新しい住宅地が混在し、また市域の約半分が臨海部の工業地です。市内での犯罪発生件数はそれほど多くなく比較的「落ち着いたまち」と言えます。

しかし、このように一見「落ち着いたまち」である本市においても、子どもに対する声かけや連れ去り未遂等の子どもが被害に遭う事件が発生しており、一歩間違えば重大事件に発展するものもありました。また、日常のテレビや新聞でも報道されているように、子どもたちが犯罪の犠牲になる痛ましい事件が後を絶たず、保護者の不安も高まっています。

こうした状況を背景に、高石市では、子どもたちの安全を確保していくことが、なによりも最優先の課題であると考え、様々な取組を行っています。

子どもの安全確保の施策について

子どもたちの安全確保に対する取組として、子どもたちの安全見まもり隊活動の活性化、全市立小学校(7校)への警備員の配置、青色回転灯パトロールカーによる巡回の強化、安全教育の充実、防犯訓練に専門の指導員の派遣等を、大阪府などの他機関と協力しながら実施しています。

とりわけ、地域の住民ボランティアにお願いしている安全見まもり隊活動に関しては非常に活発に活動しています。人口当たり別で見た活動人数、見まもり地点数が多く、非常に実効性の高い活動となっています。保護者も喜んでおり、市としても非常に感謝しています。

また、子どもの安全見まもり隊活動を通して、ボランティアの方々と子どもたちが互いに挨拶を交わ

見まもり隊研修会の様子



すなど声をかけ合う機会が生まれ、地域のおとなと子どもたちが接するきっかけになるという、嬉しい効果も発生しています。こうした地域のつながりから、子どもたちの交通マナーの改善や、おとなの子どもたちへの接し方の変化など防犯活動を越えた地域コミュニティの強化へとつながっています。

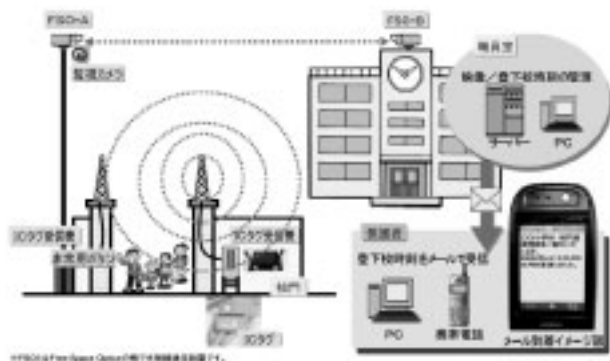
登下校時刻管理システムの概要

こうした地域一体となった取組と併せてさらに子どもたちの安全確保のレベルを向上させるために、NTT西日本一中国と協力して、全市立小学校にICタグによる児童の登下校時刻管理システムを平成19年10月から導入しました。

ICタグ



システムイメージ図



サーバー



このシステムは児童がICタグを携帯して登下校する際にそのタグが発信する電波を校門付近に設置したアンテナで受信し、職員室に設置したサーバーに通過時刻情報が記録されるものです。この通過情報により児童の登下校を確認できます。併せて監視カメラを校門に設置しており、付近の状況をモニターで確認することができます。さらに有料契約によるオプションになりますが、保護者とNTT西日本一中国が契約しておくことで、校門で受信した通過時刻をメールで保護者に配信する機能も備えています。

このシステムによって各児童の登下校の把握が正確になり、保護者にとってもメールサービスを利用することで、学校に着いた時刻、出た時刻が瞬時にわかり、離れた場所においても子どもの行動が把握しやすくなり安心感が高まります。加えて、ICタグの携帯や校門の監視カメラを複合的に運用するこのシステムが、広く知れ渡ることによる犯罪抑止に一定の効果も期待されています。

アンテナ



終わりに

本市ではこのようなシステムを導入する取組は初めてのことで、試行錯誤を重ねながら運用しています。今後、どのような活用方法があるのか、どのような効果があるのかなど、実際に活用している学校現場や保護者の方々の意見を参考にしながら、さらに検討、検証を進めていく必要があります。このシステムを安定して運用することで、保護者や学校、なにより子どもたちに自然なものとして受け入れられる、いわば空気のような存在になってほしいと考えています。空気のように身近にあってこそ始めて、このシステムが有効に活用されて、本市の子どもたちの安全確保に対して一層の効果をあげることができると考えています。

そして、登下校時の安全確認はICタグシステムで、通学路での安全確保は子どもの安全見まもり隊の協力で、また帰宅後での不測の事態には子ども110番の家を活用といったように、それぞれの時間帯や場所に併せたそれぞれの機能を発揮しながら、子どもたちの安全を確保していきます。

また、現在の取組に満足するのではなく、これからも、様々な可能性を探りながらいろいろな取組を実施していきたいと考えています。